

## 個人消費堅調地合い継続へ～米小売売上高

2018年5月14日(月)

欧州・英国などの指標が弱めに出る中  
好調さを基本的にキープしている米国。  
もっとも4日の米雇用統計は若干の弱さを見せており  
今後についてやや気になるようになっていきます。

そうした中、雇用等も密接に結びつく家計の消費について  
今週は動向をまともに表す小売売上高(4月)の発表が控えています。

実は、昨年末から弱めの数字が続いた小売売上高ですが  
前回3月分の小売売上高(4月16日発表)は、4か月ぶりに前月比プラスを記録。  
警戒されていた消費動向に関して  
その底堅さが確認されてドル買いに安心感が出る結果となりました。

1月に発効した所得減税の効果が多くの対象者にとって  
2月後半ぐらいから反映されてきたことで  
消費を押し上げる格好となったようです。

ガソリンスタンド売り上げや建材や衣料など弱めの項目もありましたが、  
自動車及び同部品が大きく増加したほか、  
家具・家電など耐久消費財の堅調な数字が目立っていました。

こうした状況を受けて今回の数字ですが、  
予想は全体の数字が前月比+0.4%、自動車を除いたコアが+0.5%と  
かなり好調な数字が見込まれています。

4月は新車販売がいまいち振るわなかったこともあり、  
自動車部門の低下が見込まれ、  
全体の数字自体は前回の+0.6%から鈍化とはいえ、+0.4%はかなりの高水準。  
自動車を除いた数字の+0.5%もかなり強めの数字となっています。

なお、4月は原油高の影響もあって  
ガソリン価格が全米全種平均で3月の1バレル2.709ドルから、2.873ドルまで  
約6%の上昇を見せており、  
ガソリンスタンド売り上げの大幅改善が見込まれます。  
(一部地域を除いて生活必需品の為、価格上昇がそれほど消費の減退につながらず  
売上高ペースでは価格上昇分、増加が見込まれます)

所得減税の効果がまだ続くと見られていることなども  
小売売上高の押し上げ要因となりそうで、  
かなり強気な予想とはいえ、十分にあり得そうな状況です。

予想もしくはそれ以上の数字が出てくると、  
ドル高の流れを支える結果となりそうです。

その他の注目材料としては、15日にドイツ、16日に日本の第1四半期GDP速報値、  
16日に米長期金利上昇下で新興国通貨に売りが目立つ中で注目されるブラジルの政策金利、  
17日に豪雇用統計(4月)などが控えています。

ここに掲載されている情報は、情報提供を目的としたものであり、特定の商品などの投資の勧誘を目的としたものではありません。

最終的な投資判断は、お客様ご自身の判断と責任によってなされ、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても「株式会社みんかぶ」では責任を一切負いかねます。「株式会社みんかぶ」は、信頼できる情報をもとに情報を作成しておりますが、正確性や完全性について責任を負いません。ここに掲載されている情報は、作成時点のものであり、市場環境等の変化などによって予告なく変更または廃止されることがあります。ここに掲載されている情報の著作権は、株式会社みんかぶに帰属し、株式会社みんかぶの許可無しに転用、複製、複写はできません。株式会社みんかぶ